

平成27年度 第1回 向日市国民健康保険運営協議会会議録

- 1 日 時 平成27年10月15日（木） 午後2時～3時30分
- 2 場 所 向日市役所 大会議室
- 3 出席委員 楠本会長、長谷川（勤）副会長、佐藤委員、河合委員、梅地委員、北田委員、山口委員、中川委員、長谷川（新）委員、高橋委員、松本委員、山本委員（12名）
- 4 欠席委員 高畑委員、森田委員、森川委員（3名）
- 5 傍 聴 者 1名
- 6 議 題 (1) 平成26年度向日市国民健康保険事業報告について
(2) 平成27年度向日市国民健康保険事業計画について
(3) その他

議事（要約）

- 1 市長あいさつ
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 議題

(1) 平成26年度向日市国民健康保険事業報告について

<事務局からの説明>

- ・加入者数は横ばいが続いている。ただし退職被保険者は減少している。
- ・26年度決算における歳入歳出差引額は、935万6千円であり、次年度へ繰越した。しかし、京都府の広域化等貸付金から約2億円を借り、一般会計からも1億3,600万円ほどの法定外繰入れを行ったうえでの収支であり、実質的には3億円以上の赤字。
- ・保険料収納率（現年度）は、94.03%で、前年度から0.62%上昇した。
- ・保険料率の改定は行っていないが、賦課限度額は国基準どおりとしたため、医療・介護・後期の合計額は最高81万円となった。
- ・医療給付費は前年度に比べ3.2%上昇し、42億3,400万円となった。
- ・主要事業の取り組み

短期の被保険者証等を活用し、積極的に滞納者との接触を図った。

柔道整復等、療養費適正化事業として、患者照会等の業務を外部委託し、適正受診の啓発を行った。

特定健診、特定保健指導の受診率向上を図った。

人間ドック、脳ドックの補助を利用できる医療機関数を増やした。

<委員からの意見>

- ・70歳以上75歳未満の方の窓口での負担割合について
- ・特定健診・特定保健指導の対象者等について
- ・保健指導の内容や教室の開催時間などを精査すれば、受診率の向上につながるのではないか。
- ・向日市には食生活改善推進委員がいるので、保健事業で活用してはどうか。

- ・人間ドックの補助を通年利用できるよう、他の自治体も参考にして、検討していただきたい。

（２）平成 27 年度向日市国民健康保険事業計画について

＜事務局からの説明＞

非常に厳しい財政状況のなか、健全な財政運営と負担の公平性の確保、誰もが安心して医療を受けることができる制度の維持に向けて、３つの重点項目を設定した。

・保険料の算定

医療分、後期高齢者支援金分、介護納付金分においてそれぞれ必要となる賦課額やバランスのとれた応能応益割合、中長期的な視点に立った料率設定等を十分考慮し、保険料のあり方について検討する。

・収納率の確保

収納対策の基本を収納率の向上とし、滞納世帯に対しては、早期の段階から電話・訪問による納付勧奨を行う。また、社会保険等に参加した者、所得の未申告者に対する届出勧奨も強化し、収納率の上昇に努める。

・医療費の適正化

データヘルス計画を策定し、医療費の伸びの抑制を図る。また、レセプト点検、療養費の適正化、後発医薬品の利用促進に引き続き取り組む。

＜委員からの意見＞

- ・収納対策については重点事項にもなっているが、依然として多くの滞納件数を抱えており、しっかり取り組んでいただきたい。
- ・所得不明者の把握方法と対策はどのようにしているのか。
- ・滞納処分をした実績はあるのか。

（３）その他

第２回目の運営協議会は、28 年 2 月の予定。